

を生じたために、「**田**」(ホ)「**口**」の警察権をも必要となりました。

「**田**」(ト)の「**口**」と「**田**」(ホ)「**口**」の二種の象徴の理念のおかげでクニ(国家・社会)も収まってまいりました。

なつて、8代アマカミのアマテルカミの時代には、「**田**」(カガミ)「**口**」が追加されます。「**田**」の内を省りみるための理念の象徴が「**田**」(カガミ)「**口**」です。「**田**」についてミクサタカラ(後に三種の神器)として整う事になりました。「**田**」(ト)の「**口**」と「**田**」(ホ)「**口**」(以前の「**田**」(ホ)「**口**」の「**田**」)です。こうして国家の形態も、あきらかな「立憲君主国家」として整いました。

9代目のオシホミミさまも、国民のためにとお尽くしになりました。次の10代目の弟君のニニキネさまは、さらに大発展の国家運営をなさいます。

全国各地に、微高地の灌漑用水を確保した水田の新田開発を拡充させてゆかれました。ニニキネさまに導かれた国民は本当に幸せであったことでした。そして、ニニキネさまのお仕事に協力を惜しまなかったのが、わが祖先のクシヒ「**口**」(2代目オオモノヌシ)でした。国家の護持のために、「**田**」(ケノリ)「**口**」(生きながらにして、

墓所に入ってゆく事)にて、ミモロのヤマ(三輪山)に亡くなっています。

さて、こうした真面目な努力を積み重ねて我が国の事を、臣下の務めとして守って来ましたのでした。

そうしまして、アスス566年の事でした。継母をおキサキに入れると言う出来事が起きます。時の、わが祖先のミケヌシは、イサメ(諫言)を言上申し上げます。ですが、お聞き入れにならないこと無く、ミケヌシは、蟄居謹慎します。時に、九代フトヒ(開化天皇)5年の事で御座いました。(詳しくは『ホツマツタエ』32アヤ51ページに記述が有ります。)

わが祖先の真摯な対応につきまして、ミケヌシにしましてもそつで御座いました。更に遡りましたら、ニニキネさまのお仕事に真剣に協力をさせて戴きました、わが祖先のクシヒコ(2代目オオモノヌシ)も、イサメ(諫言)を言上申し上げておりました。

さて、それから59年を経まして、アススの625年に、アヤミ(流行性疾病)が流行ります。国民の半数もが病死してしまう大きな悲劇でした。それはおそろくは、ミチの乱れが原因であると考えられます。継母をおキサキに入れると言うのは、ミチの乱

れの過ちであるのです。イサメ(諫言)の言上からの畏れから、身を引いての蟄居謹慎が60年になりました。ようやくして、また、アメ(朝廷)から召されることになりました。その恵みは、有り難い事で御座います。

その、モフデモノ(おみやげ)として、『ホツマツタエ』の4
〇アヤをアミ(編み・編集・上梓)まして奉ります。

国家の安寧のため、キミ(天皇陛下)の国家運営の健全さを築いてゆく基礎のタメシ(根拠)となるためにと、畏れながらも、つつしみツホメ(編集)して御座います。

この『ホツマツタエ』をみるには、10代アマカミの
ニキネさまのお心を、学びて得てゆく事でありましよう。しま
まる、まねに集まるとして、へ、生じてきて西洋とした(しまり、ど
うしてゆくとまねに良いかを顕然と表すこと)になるのです。その
じころ(精神)になり、こねこそが、花咲く御世のハル(スプリ
ング、春)になるので御座います。

こそこのわの まねにはなみて

